
アポクリファスの古戦場：灰の大地/白き大樹

pandi剛種

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アポクリファスの古戦場：灰の大地／白き大樹

【Nコード】

N4389Z

【作者名】

pandichan

【あらすじ】

「ここはなに？現実？それともゲーム？」

今話題のVRMMOジャンルをpandichanが襲撃ッ。ログイン画面を押せばいつの間にかそこはまるで異世界。触る木々は確かに実感できて風は冷たくおしっこが出そう。そんな現実のようなそうでないような、そんな世界に投げ出された少女の、ラスボスめがけて大前進が今始まる！

「戦え 戦え 争い

を告げ、その向こうに血を流せ」

「うっさい！熊が喋るんじゃないわよクソが！」

序章・悲しき少女の叫び（棒読み）（前書き）

というわけでアポクリファスちゃん出番よお。

「まじかよ……」

というわけで今日から少しずつ書いていきます、夜中だけど。よろ
し（*、*）

序章：悲しき少女の叫び（棒読み）

子供の時、父と母が列車事故で死んだ。

五歳の時だったと思う。

一人っ子だった私は、当然父と母と一緒にあの列車にいたはずだった。

だけど死んだのは父と母だけだった。

父は私の上におぶさってくれていた。

母はずっと私の手を握りしめていてくれた。

なんでだろう。

なんで、私は生きているのだろう。

そう考える暇もなく、時は過ぎていき、程なく私は六歳の時に別の老夫婦に預けられる事になった。

やったねレナちゃん家族が増えるよ。

と言った具合だったのだが、今度はそのおじいさんとおばあさんが死亡。

死因？

餅を喉に詰まらせて、病院送り。

そのままニツコリと笑ってあの世に行きましたとさ。

いやいや。

いやいやいや。

おかしいでしょ。

なんで笑って逝けるの？

モチ詰まらせて頭回ってなかったでしょ。

何？脳内物質でも回ってるわけ、老人がアへ顔晒して文字通りぽっくりと絶頂しちゃったわけ？

バカにしてる？

いやいや、だっておじいちゃんの最後、シートにテントはって
んん　そうじゃないわね、そうじゃないの。

私が言いたいことはそういう事じゃないの。

なんで私の周りで親しい人達が死んでいくの？

ああ、可哀想な

んん。おじいちゃんは、そんなに……親しくなかった……かな？

ううん、親しかった。

ここ断定しておくわ。でないと独白が続かない気がするもの。

おかげで学校では、私は死神扱い。

「死ぬぜえ、私を見た奴は皆死ぬぜえ」

「キヤアアアア、レナちゃん格好いいいいいい」

「おら、男子どもジュース買いに行きな。でないと死ぬぜえ」

「キヤアアアアア！」

うん、死神扱い。

OMだってこなせるレベルよ。

そんなわけで　そんなわけでっ、私の心は幼いながら、とても

……とても歪んでしまった。

可哀想な私。

例えるなら、渦を描いて天に向かってそそり立つう　この如き
じれよう。

うぬ、立派な聖帝十字陵であるな。

そんなセリフが聞けちゃうレベルの擦じれよう。

哀しい。

私は哀しい。

「オーウ！ナンチューコート！スツゴイカワイソ！」

え？

え？

ううん、何も聞こえない。

聞こえないわ、何にも聞こえないの。

私のログには何も無いわ。

そんな私がMMOに入り浸って何が悪いというの？

学校行け？

クラブ入れ？

お友達と仲良く帰って帰りに喫茶店でも寄って周りの女の子とキヤツキヤウフフしようよ？

何それ怖いわぁ。

彼氏？

彼女申請のメールの方が多し現状でそれはないわぁ。

気持ち悪いわぁ。

ナイスエクストラスリムバディ中学生美少女が街中歩いているって言うのに、誰も声掛けないもの。

「この野郎！ 私のパン取りやがってよぉ、こいつは滅茶許せんよなぁああああああ！」

こっちが声掛けたら。

「逃げんなくそ虫すりつぶしてやらぁあああ！」

逃げちゃうんだものっ。男子ってよくわかんないわっ

そんなわけで、学校にもそんなに居場所はなく。

いやあるんですよ。

ただそれが『守護神』『番長』『そなたこそ真の三国無双よ』とか言われる立場ばかり。

私を、私を女の子として扱ってください。

私を女の子として扱ってください。空間をください。

私を女の子にしてくださいッ。

「いやあんた女の子 じゃないかもね」

クソが。

くそつたれな流れ星に願いを込めつつ、四度目の老いた家族の一員として、炊事洗濯家事親父といった具合一通りのことをこなす。

そして夜な夜なテレホマンが登場しそうな時間帯で、MMOをこ

なす。

私が女の子でいられる時間はここだけ。

今だけ私は女の子なのっ。

『お前ネカマだろキメエ。レスタに呼ばれたので移動しますね^^;』

.....』

クソが。

今日も今日とて私は居場所を探す。

私が女の子で居られる場所。

私がお姫様でいられる場所。

あ、ニコ生とかうちのシマではノーカンなんで。

そんなわけで、今日も私はMMO『探し』に全力を尽くしている所だ。

正直MMO自体はそんなに経歴があるわけではないのだが、それでもいつか自分の大切な居場所を見つかけられると信じてる。

信じて

「ん？」

『アポクリファス戦記』

大したネーミングじゃない。

だけど心は惹かれた。

まるで魂がグイッとディスプレイに引っ張られていくような、ログイン画面を見ているだけそんな感覚になった。

ログイン画面には、二つの首を持った巨大な灰色の熊が見える。

広がる大陸。

砂漠、森、山、海。

青空、そして太陽っ。

ありふれている、だけど見れば見る程画像とは思えないほどに、生き生きとしているようだった。

面白そう。

心が小躍りする（阿波おどりです）

行くっ。

ここなら私の、私だけの居場所が見つけれられるかもしれない。

私が女の子でいられる場所が。

「いやさすがに無理やる」

うっさい流れ星は喋んなクソが。

そんな事を考えつつ私、ナイスボディの中学生、速比売レナはその『アポクリファス戦記』にログインすることにした。

これが、私の、人生で最初で最後の

「え？」

VRMMOになるとも知らず。

アポクリファスの古戦場：灰の大

地ノ白き大樹

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4389z/>

アポクリファスの古戦場：灰の大地/白き大樹

2011年12月15日01時47分発行